



新理事長抱負

日本母性看護学会理事長 石井 邦子 (千葉県立保健医療大学)

このたび、一般社団法人日本母性看護学会理事長を拝命いたしました。1999年の発足以来、本学会は「母性看護学の進歩発展を図り、女性及び母子とその家族の健康と福祉に貢献すること」を目的に活動を続けてきました。感染症と共存する新しい社会において、本学会の活動がより一層発展するように、尽力してまいりたいと考えております。

2年間の任期の中で、特に力を入れたいことが3つあります。

1. 母性看護学に関連する研究活動の推進

母性看護学に関する基礎的研究と実践的研究の両面から推進するために、研究助成や相談事業を通じて、若手研究者と母性看護実践者を中心に、学会員の皆様の研究活動を支援します。

2. 学術的基盤に基づいた高度看護実践の推進

ハイリスク妊娠や女性の生涯にわたるウイメ

ンズヘルスケア等、今後特に注目すべき健康問題に関して、エビデンスに基づいた看護が提供できるように、セミナー開催やネットワークづくりを通じて、学会員の皆様の高度看護実践を支援します。

3. 学会事業推進のための委員会活動の活性化

本学会は、学会の将来を見据えて、2019年に評議員制度を導入すると同時に7つの常設委員会を設置する学会組織の改組を行いました。約800名の会員の皆様のニーズに沿った学会運営となるように、多様な委員構成による委員会運営を行い、魅力ある学会事業を行います。

この大変な時代に、母性看護学に従事され奮闘されている会員の皆様の声を、迅速に学会運営に反映させ、社会に還元していきたいと思えます。学会活動への一層のご参加、お力添えを賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

1. 理事会・委員会の役割の紹介

齋藤 いずみ (神戸大学大学院)

日本母性看護学会の理事会や委員会のことをご紹介したいと思います。理事長も変わり、学会がより日本母性看護学会として充実し、学術や社会に貢献するために、いろいろなシステムや委員会活動を刷新しているところです。そこで、理事会の中でも、各理事が各委員会で、ど

のような役割を分担しているのかの概要をお伝えいたします。学会発表をするだけでは、なかなか学会内部のことは見えづらいものだと思います。学会員の皆様の中には、学術学会の開催日以外に、学会って何か活動しているのだろうかと思う方もいるかもしれません。実は、私も

以前そんな一人でした。

学会とは、学問や研究の従事者らが、自己の研究成果を公開発表し、その科学的妥当性をオープンな場で検討論議する場であります。また同時に、査読、研究発表会、講演会、学会誌、学術論文誌などの研究成果の発表の場を提供する業務や、研究者同士の交流などの役目も果たす機関でもあります。学会活動は原則として研究者のボランティアです。

学会には、理事が存在し、学会の方向性や重要事項を話し合い、その理事は各々の委員会で役割を持っています。例えば、日本母性看護学会であれば、総務(総務/災害対策/将来構想)・会計・編集・広報・研究/学術支援研究促進・研究/学術支援学術支援・生涯学習支援CTGセミナー・生涯学習支援WHCセミナー・生涯

学習支援GDMセミナー・看護政策検討・高度実践看護師育成支援の委員会があります。総務・会計・広報などは学会の充実のために機能し、それが間接的に学会員の皆様に還元されます。編集・研究/学術支援・生涯学習・高度実践看護師育成などは、直接会員の皆様と触れ合う機会が多い委員会だといえましょう。看護政策検討委員会は、学術や実践の成果を診療報酬に反映していくための活動が主になります。

我々理事は理事会を年間数回開催し、日本母性看護学会を充実させ、日本の母性看護学の発展さらには、社会に貢献するための活動をしています。今年度のニュースレターでは特に刷新発展強化を考えている委員会の委員長に、委員会活動を紹介していただきます。

2. 新たな委員会活動の取り組み 編集委員会

編集委員会担当理事 森 恵美 (千葉大学大学院看護学研究院)

編集委員会は本学会の目的「母性看護学の進歩発展を図り、……」の根幹をなす重要な事業であります、本学会誌の編集・制作・発刊を行っております。学会誌は年2回発刊されて10数件の論文が毎年採択されておりますが、1刊10論文程度、1年間で20論文程度の掲載が可能な状況でございます。会員が800名程度であり随時査読であることを考えますと、若手研究者や実践者の育成、並びに母性看護学の学術的基盤を発展させるために、会員の皆様が本学会誌へ論文を投稿することをさらに促進していきたいと考えます。

編集方針としては、会員・投稿者ファーストの編集を心がけ、よりよい論文が多く本学会誌に掲載されるよう、編集委員会一同で支援していきたいと考えております。今回、新理事長のもと、編集委員会委員を増員していただき、編

集・制作についてもお陰様で事務的支援を委託することになりました。さらに、投稿論文数の増加に向けて、査読委員の増員が必要な状況でありますので、募集方法を検討中でございます。その際にはご協力のほどよろしくお願いいたします。これまで、論文投稿する方にとっては、掲載されている論文だけが執筆の参考であり、論文を書きなれていない会員にとってはハードルが高かったと思います。一方で、査読者の先生にとっては、かなりの時間をかけ、色々と詳細なところまで指摘せざるを得ない状況となっていたと考えます。そこで、執筆要領を作成するなど会員が投稿しやすいような環境づくりと、査読者の先生方のご負担を軽減するためにも査読マニュアルの充実などの取り組みをいたしますので、何卒ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

3. 新たな委員会活動の取り組み 研究・学術支援委員会

研究・学術支援委員会担当理事 大平 光子（広島大学大学院）

研究・学術支援委員会では研究助成事業活性化に向けて新たに、研究助成応募時からの支援を充実させます。本学会では、2010年度より学術研究活動を促進し、特に若手研究者や臨床で働く研究者を支援することを趣旨として、研究助成事業に取り組んできました。毎年2～4件の応募に対して、1～2件が採択され、2021年度までに18件の助成を行いました。また、特別助成として、東日本大震災研究助成及び新型コロナウイルス感染症関連研究助成も行ってきました。助成を受けた研究は本学会誌及び本学会学術集会で公表していただき、研究成果を会員に還元しています。

2021年度からは、3つの新たな取り組みを始めます。①募集要項を見直し、若手研究者や臨床から積極的に応募してもらえるようにします。②研究助成応募書類作成に関するQ&Aを

本学会公式ホームページに設置します。③応募を検討している方の応募書類作成を支援するミニワークショップ（web開催予定）を企画します。

ミニワークショップの開催時期は応募書類作成を始められる12月末以降を予定しています。内容は応募書類の書き方に関するミニレクチャー及び疑問点について、参加者が講師と議論しながら解決していくことを支援するような企画を進めています。詳細はホームページ等でお知らせします。新たな取り組みを活用していただき、是非、多くの若手研究者や臨床の方が2022年度の研究助成に応募してくださることを願っております。研究助成制度の活性化に向けて、今後さらに会員の皆様の意見を取り入れながら取り組んでいきます。

4. 新たな委員会活動の取り組み 生涯学習支援委員会

生涯学習支援委員会担当理事 新井 陽子（北里大学）

今期の生涯学習支援委員会は、成田理事と新井で担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

生涯学習支援委員会は、これまでCTGセミナー、GDMセミナーを開催し、多くの会員・非会員の皆様に参加していただきました。また、今年からWHC（Women's Health Care）セミナーを開催することになりました。周産期領域に加えて、女性及び母子とその家族への看護実践が充実することを目的に活動して参りたいと

思います。

2020年度、COVID-19流行により対面講義が難しくなりました。会員の皆様も、県外の出張は認められず研修への参加も制限されていると思います。そのような中でも研修を受けていただけるように、ZoomなどのICTを用いたセミナーの開催を計画しています。

本学会のセミナーの特徴は、それぞれの領域を専門とする医師や母性看護専門看護師とにプログラム内容を検討し、講義形式だけではなく、

グループワークなど会員同士の交流も併用していることです。エビデンスに基づいて日々の看護実践に活用していただけるように内容を充実させていきたいと考えております。これまでにセミナーを受講した皆様も参加していただける

ように内容を随時更新していく予定です。ぜひ、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

なお、セミナーの開催は、ホームページやメーリングリストでお知らせいたします。

5. 母性看護専門看護師を理事会メンバーに迎えました1

浅野 浩子（山梨大学大学院総合研究部 母性看護専門看護師）

私は本年度より、看護政策検討委員会に加えていただき、助産ケアの成果を集積し、政策提言にむけた活動を行うこととなりました。本格的な活動はこれからになりますが、CNSとして理事会に加えていただくことのメリットについて考えを述べさせていただきます。

これまで母性看護CNSは、専門看護師の運営する組織として、事例検討会を行い、ケースワークを通じて活動を振り返り、看護実践活動の質を向上するための教育活動を行ってきました。また学会発表を通じて母性看護CNSの活動を報告する機会をつくってきました。

しかし、これまでCNSは個人による活動報告はしてきましたが、自分達の活動を研究的な視点で集積し、看護の質を評価することはほとんどできていません。また、私たちの教育活動は、周産期医療や母性看護の最新の知見、社会的ニーズや教育の変化を踏まえたものとなってい

るのか、CNSの継続教育の質、実践能力の質の保証という点でも見直しが必要になっていると思います。

CNSの組織内外への貢献を明らかにし、診療報酬につながるような看護の質の評価を行うことは、個人の実践の評価だけでは困難です。研究的視点で看護実践を評価し、実践モデルを示すためには、母性看護の専門的な視点からの評価も必要であり、CNSだけの力では研究を進めていくことは限界があります。

このため、CNSが理事会に入り、学会の目指す実践的研究や看護の質向上を目指した活動に参画することによって、CNSの研究活動や教育活動に還元できるのではないかと考えます。理事会での経験の中で多くを学ばせていただき、CNSの活動の成果が可視化できるよう努めてまいります。

6. 母性看護専門看護師を理事会メンバーに迎えました2

長坂 桂子（NTT 東日本関東病院 母性看護専門看護師）

皆様こんにちは！母性看護専門看護師の長坂です。2019年～評議員、2021年の選挙では理事に選出され、驚いています。1999年の当学会設立以後、初のCNS選出であり、また、今年度、理事・監事の先生方20名が教育研究職としてご活躍である中で、当方は、唯一の臨床家です。臨床は、最前線で女性、母子とその家族にケアを届ける場であり、また、最も早く、健康や生

活のお困りごとをキャッチする場でもあります。看護師の約95%、助産師の約90%と大半が臨床業務に従事していますが、会員の皆様が、臨床からの発信にも期待して下さっていることが伝わってきて、身が引き締まる思いでした。

石井会長が掲げられた学会のビジョンの一つに、「学術的基盤に基づいた高度看護実践の推進」があります。昨年度までは「育成支援」で

したが、今年度は「実践の推進」に進化しています。このビジョンを具現化するため、任期の2年間はなるべく多く、高度看護実践に関わる会員の皆様と会話し、実践やご経験・学術的基盤についてお伺いしたいと思います。また、

APN委員会メンバーと共に、CNS実践の可視化研究、セミナー・交流会に取り組んでまいります。ご指導、ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

第23回日本母性看護学会学術集会報告

第23回学術集会長 石井 邦子（千葉県立保健医療大学）

第23回日本母性看護学会学術集会は、2021年5月22日のライブ配信と、6月1日から6月30日のオンデマンド配信にて開催いたしました。東京2020オリンピック・パラリンピックの1年延期に伴う開催日の変更、幕張メッセでの現地開催の中止と、COVID-19パンデミックの影響により計画を変更し、最終的に千葉県を含む10都道府県で緊急事態宣言が発令される中での全面オンライン開催となりました。

メインテーマは、「次代へと命をつなぐ確かなケア—新たな社会生活への挑戦—」でした。特別講演は、聖路加国際大学の太田えりか教授から「ニューノーマル時代に看護職に求められる力」のテーマでご講演いただきました。鼎談「日本看護協会長と語る—ウイメンズヘルス領域の高度看護実践の未来像」とシンポジウム「新たな社会生活における命をつなぐ確かなケア—その変革と継承—」では、コロナ禍での経験を糧に、次のステージで何をめざすかという未来志向の討議に発展しました。教育講演は、「新しい社会生活におけるステップアップ・ケア」と題し、周産期メンタルヘルスケア、女性への暴力、助産師現任教育、常位胎盤早期剥離のケア再考と、コロナ禍で深刻化した女性の健康問題にフォーカスしました。

一般演題は、40題をパワーポイント動画で配信し、チャットによる質疑応答を行いました。予想よりチャット利用が少なかったことから、参加者同士の交流を活発にするための工夫が必要という課題が見つかりました。

参加登録人数は1124名と過去最高となりました。

た。遠方の方や子育て中の方から「オンラインだから参加できた」という声が寄せられました。学術集会初体験という方からは「気軽に参加できた」という声も届きました。新しい学術集会の在り方を模索する試金石になれば幸いです。

前例のない学術集会運営は試行錯誤の連続でしたが、多くの皆様の示唆に富むご助言とあたたかい励ましに支えられ、無事に成し遂げることができました。また、世界中の看護職が終わりの見えないコロナとの戦いに奮闘する中、学術集会を開催することにどんな意味があるのだろうかと迷いが生じることもありました。しかし、参加者の皆様がコロナの次のフェイズを視野に入れて参加してくださったことを実感し、逆に、勇気と元気をいただきました。参加者の皆様、開催にお力添えをいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

一般演題 優秀賞

分娩後から初回排尿までの褥婦の膀胱機能の特徴

○北島 友香、西村 香織、三加 るり子、松井 弘美（富山県立大学看護学部）

頼る人がいないと感じる妊婦に対する継続支援—病棟助産師による産後退院早期の家庭訪問を実施して—

○後藤 悠希、末次 加奈、齋藤 久美子（岐阜大学医学部附属病院）



開会式配信の様子



特別講演 大田えりか先生



シンポジストの皆様



ライブ配信を終えて記念撮影

第24回日本母性看護学会学術集会のご案内

第24回学術集会長 佐々木 綾子 (大阪医科薬科大学看護学部)

会 期：2022年6月26（日）

開催方法：WEB開催

テ ー マ：「パンデミックからのメッセージ～
母性看護へのヒント～」

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大が続くなか、対応にご尽力されている皆様には、心より感謝と敬意を表します。このたび、日本母性看護学会第24回学術集会長を拝命し、2022年6月26日（日）に学術集会を開催させていただき運びとなりました。

今回の学会のテーマは「パンデミックからのメッセージ～母性看護へのヒント～」としました。新型コロナウイルスは多くの人命を奪い、

世界を恐怖に陥れ、世の中のシステムを変えました。また身近なところでは、家族、働き方、経済、環境システムを変化させました。そして、母性看護の対象者、臨床、地域、教育、研究も多大な影響を受けました。いまだ人々の生活にさまざまな影響を及ぼしています。

一方、新型コロナウイルスによる様々な変化をきっかけに、私たちが自身の仕事や生活、価値観と深く向き合うことになりました。さらに、母性看護では新たな支援・教育・研究のあり方を考える契機ともなり、パンデミックは様々なヒントをもたらしました。

第24回学術集会はWEB開催で準備が進んでいます。当日ライブ配信として、特別講演2題、

教育講演2題、ランチタイムセミナー1題、シンポジウム、オンデマンド配信として、教育セミナー4題、一般演題を配信、7月の1か月間は、すべてをオンデマンド配信予定です。学術集会を通じ、「母性看護へのヒント」を共有し、今後の母性看護を考える機会になればと思います。

本学術集会は対面開催ではないため、会場にお越しいただくことはできませんが、WEB開催のライブ配信会場となる大阪医科大学の所在地である高槻市について簡単にご紹介いたします。高槻市は、京都と大阪の間に位置し、2大都市のベッドタウンとして発展してきた街

です。高槻駅には新快速が停車し、京都駅・大阪駅には20分以内で到着します。阪急電鉄「高槻市駅」は特急が停車し、京都市内中心部・大阪梅田のどちらにも30分以内で行くことができます。

感染状況が収束しましたら、ぜひ一度訪れてみてください。

最新の情報は本学術集会ホームページでお知らせしてまいりますので、どうぞご確認ください。会員の皆様のご期待に応えられる学術集会となるよう、学術集会企画委員会の委員と共に、企画を練っております。多くの皆様のご参加をお待ちしています。



各委員会からのお知らせ

1. 研究・学術支援委員会 学術支援部会 第15回日本母性看護学会学術支援セミナーのお知らせ

テーマ：Mixed Methodで研究してみよう
講師：亀井智子先生（聖路加国際大学）
日程：2021年12月25日（土）13～15時30分
方法：zoom
参加費：会員 無料、非会員2,000円
※申し込み方法等は、後日、ホームページに掲載します。

2. 研究・学術支援委員会 研究促進部会

2022年度も日本母性看護学会研究助成の公募を行います。応募締め切りは2022年2月28日です。募集要項の詳細はホームページでお知らせします。2022年度研究助成に応募予定の方を対象に以下のミニワークショップ開催を予定しています。

「研究助成申請書の書き方の疑問を解決しよう（仮）」

講師：交渉中

日時：2022年1月開催予定

開催方法：オンライン（ZOOMミーティング・ライブ双方向）

対象者：会員のみ、参加費：無料

3. 生涯学習支援委員会

「糖代謝異常妊産褥婦を支援する看護実践セミナー+助産師外来での在宅妊娠糖尿病患者指導管理料獲得セミナー」開催のご案内

上記セミナーの開催方法と日程が決まりました。講義部分をオンデマンドでの視聴、講義視聴後のディスカッションを遠隔でのリアル開催とします。近々、詳細を本学会ホームページに掲載します。

○講義のオンデマンドの視聴期間：2021年12

月～2022年1月

○遠隔でのディスカッション参加：2022年1月29日（土）あるいは1月30日（日）の午後（選択）
※受講者の講義に対する質問もメールでお受けします。

4. 高度実践看護師育成支援委員会（APN委員会）

1) TSUMUGU会

APN委員会では、母性看護CNSを取り巻く実践・教育・管理者の交流の場として、今年度よりTSUMUGU会を開催しています。第1回TSUMUGU会（6/13）、第2回TSUMUGU会（8/28）を終え、第3回TSUMUGU会（10/30）はAPN委員会と看護政策検討委員会との共同企画でした。「専門看護師の実践を診療報酬につなげるために」と題し、東北大学大学院吉田美香子氏より『看護実践を診療報酬に反映する経験』として「排尿自立指導」に伴う看護技術料を保険収載していくための学会活動の歩みや

ご経験をご紹介頂きました。成田伸理事からは2020年度の診療報酬改定に向けて母性看護学会が行った活動とその成果についてご報告いただき、診療報酬獲得につながるエビデンス創出にむけた本学会の今後の方向性について議論を深めることができました。

2) 母性看護CNSメーリングリスト

7月には母性看護CNSの情報交換と交流を目的としてメーリングリストを立ち上げました。現役母性看護CNSの方々のみならず、母性看護CNSの活動に興味ある学会員はどなたでも参加できます。

詳細は学会HPよりご覧ください。（<https://bosei.org/cnsinfo.html#h09>）

3) 母性看護CNSの実践が電子書籍化

2019年「助産雑誌」に1年間連載された「チームに働きかける母性看護CNSの実践」が電子書籍として出版されます。医書.JPのサイト（<https://store.isho.jp>）から購入できます。



事務局からのお知らせ

1. 2021年度一般社団法人日本母性看護学会総会報告について

第23回学術集会時に開催を予定しておりました総会は新型コロナウイルスの影響により、「非参加型の書面評決による総会」を開催し、社員の皆様に書面にて決議事項をお諮りしました。詳細については、学会ホームページに掲載された議事録（6.29掲載）をご参照ください。

2. 2020年度理事会について

理事会は通常理事会4回（Web）、書面理事会は3回開催されました。

3. 第24回日本母性看護学会学術集会のご案内

2022年6月26日（日）佐々木綾子学術集会長（大阪医科薬科大学）のもと、第24回日本母性看護学会学術集会をwebで開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。尚、詳細は近く公開予定のHPをご参照ください。

4. 会員のみなさまへのお願い

1) 2021年度会費の支払い

本学会は皆様の会費で運営されております。2021年度会費未納の方は、事務局よりお送りしている郵便振替用紙（青色払込取扱票）を用いるか、あるいは下記の口座番号へ会費の納入をお願いいたします。

年会費：8,000円

① 郵便振り込みの場合（青色振込取扱票）

口座番号：00120-8-386309 加入者名：一般社団法人日本母性看護学会

② 銀行振込の場合

ゆうちょ銀行 ○一九店 当座 0386309

2) 会員情報登録システム（SOLTI）への情報更新のお願い

ご連絡先・ご所属先等が変更される会員の皆様は、本システムより情報更新をお願いいたします。またEメールアドレスを登録されていない会員の方には、ぜひEメールアドレスの登録をお願いいたします。

また、本学会は、日本学術会議協力団体加盟の準備を進めております。そのため、会員の半数以上が大学教員等の研究者であることが条件となっております。つきましては、会員の皆様には、学会ホームページ（<http://bosei.org/index.html>）の「会員情報照会・更新」バナーから、ご自身の会員ID（会員番号）とパスワードを使って会員情報管理システム<SOLTI>にログインしていただき、ご自身で登録情報の修正・追加をしていただきますようお願いいたします。特に、ご所属・役職・性別につきましては、入力漏れのないようにご確認・修正をお願いしたいと存じます。ご多用かと存じますが、入力にご協力いただきますようお願いいたします。なお、オンラインでの修正が難しい場合には、FAXまたはE-mailにて、事務局あてご連絡ください。

学会公式ホームページ【会員情報照会・更新】

会員ID（会員番号）とパスワードを入力の上、ログインしてください。

事務局（会員窓口）

一般社団法人日本母性看護学会事務局

（株）ガリレオ学会業務情報化センター内

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1-4F

TEL：03-5981-9824 FAX：03-5981-9852

E-mail g031jsmn-support@ml.gakkai.ne.jp

学会HP <http://bosei.org/index.html>

編集後記

今年のNLのお届けが例年に比べ遅くなりまして会員の皆様には大変申し訳ございませんでした。今年度から新理事長となり、その新理事長のもと、各委員会組織それぞれが活動の可視化とともに、より活発な活動を会員の皆様と共有する方向で進めております。今年のNLの記事は、これまであまり知られていなかった学会の委員会活動の紹介が掲載されておりますので、記事を読んで興味を持たれた方はぜひご一報いただければと思います。また学術集会においてもオンライン開催のメリットがわかる内容となっており、臨床の方や子育てをしている会員の皆様にとってもより参加しやすくなり、今後とも皆様の学術集会参加をお願いいたします。皆様からのご意見はとても貴重です。本学会に対して期待することやご意見等がありましたら、お気軽に事務局までお寄せいただければと思います。With コロナの中で私たちにできることを精一杯行っていきたいと思います。

(文責 広報担当理事 中村康香)



発行人：石井邦子
発行日：2021年10月31日
広報担当：齋藤いずみ、中村康香
発行：一般社団法人日本母性看護学会
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1-4階
株式会社ガリレオ
学会業務情報化センター内
一般社団法人日本母性看護学会事務局
Tel：03-5981-9824 Fax：03-5981-9852
E-mail：g031jsmn-mng@ml.gakkai.ne.jp
